

平成 19 年 4 月 3 日  
農 林 水 産 省 生 産 局

## 豚改良体制整備中央推進検討会の概要について

### 1 日 時

平成 19 年 3 月 30 日 (金) 13:30 ~ 15:50

### 2 場 所

東京都千代田区霞が関 1 - 2 - 1 農林水産省 生産局第 1 会議室

### 3 出席者

委 員 (別紙参照)

### 4 議事概要

検討会の座長に南波委員が選出され、事務局より配布資料の説明が行われた後、質疑が行われ、「家畜改良増殖推進検討会報告書」具体化のための当面の行動計画(案)」が了承されました。また、委員からの主な発言は以下のとおりでした。

都道府県の財政は厳しく、税源移譲等により系統造成をはじめとする豚の改良のための予算確保は今後も厳しくなる。また、予算の問題以前に都道府県の改良技術者が不足しており、都道府県レベルでの取組には限界がある。

これまでは、海外から種豚を導入すればいいという考えがあったが、日本のマーケットニーズに合致した適度に脂がのる豚は日本にしかいなくなったのではないか。テーブルミートに合った豚肉を生産できる種豚を確保する必要がある。

系統造成については、県域を越えたブロック化を進める必要があるが、広域連携の阻害要因として、疾病の問題がある。種豚の移動に関するスタンダードなルール作りを国がやるべき。

これまでは、国が雄型系統、都道府県が雌型系統を造成してきたが、各都道府県の中にはブランド豚作出のため肉質に特徴のある系統を造成している実態もあり、今後は(独)家畜改良センターもむしろ雌型造成を考えていく必要がある。

最近、大学などの研究機関の豚改良分野でゲノム技術研究に取り組む者が増えてきたが、従来の統計学的育種による改良の効果は大きく、今後ともしっかり取り組む必要がある。

遺伝的能力評価については、アメリカのように農家にコンピュータソフトを提供するなどして、農家から正確なデータ収集ができる体制を整えば、農場間をまたいだ評価も可能となる。

種豚の改良は、豚肉の販売を担う流通業者と合意の上進めていく必要がある。また、都道府県も民間育種会社も改良には苦勞しているのだから、都道府県と民間が連携して改良に取り組むのも一つの手段である。

都道府県の手で改良を行う場合、目に見えた成果が求められるため、特産品作りが求められ目先の評価にとらわれがち。ファンダメンタルな部分の能力改良は、国が遺伝子戦略として取り組むべき。

凍結精液は、改良過程の遺伝子を保存し、将来の改良素材とする目的もあるが、疾病フリーの種豚精液の配布など遺伝的交流のためにも活用すべき。

(独)家畜改良センターでは、海外の豚の改良に関する情報収集・提供にも取り組んでほしい。

登録制度については、黒豚証明のように差別化の中で有効に活用されるケースもある。今後は、登録制度を遺伝的能力評価と結びつけることが重要。

【問い合わせ先】畜産振興課家畜改良推進第2班 俵積田、河内野、大久保  
代表：03 - 3502 - 8111 (内線：3899, 3916)

## 「家畜改良増殖推進検討会報告書」 具体化のための当面の行動計画(案)

### 各種会議の開催

都道府県等を対象とした全国会議において情報提供【19年4月】  
豚改良体制整備中央推進検討会検討内容の周知等

< 農林水産省 >

豚の新育種技術に関する研究会【19年7月頃】

国及び都道府県、全農、民間種豚場等の豚改良関係者が集まり、閉鎖群育種をはじめ、育種技術に関する研究を推進する。

< 畜産草地研究所 >

豚改良体制整備推進委員会の開催【19年 月以降】

家畜改良センターにおける取組みに係る課題を中心に、主に以下の内容について検討

< 家畜改良センター >

- ・遺伝的能力評価の推進方策
- ・今後の系統造成等育種改良方向
- ・関係機関との連携強化 など

### アンケート調査の実施

都道府県等を対象としたアンケート調査の実施【19年6月～】

都道府県等の豚改良の取組の現状把握を行うとともに、調査結果を関係機関へ情報提供

< 農林水産省 >

### 遺伝的能力評価の推進

遺伝的能力評価技術専門委員会等の開催【19年度内】

参加農家拡大、血縁ブリッジ構築のための方策や特定地域内特定品種の種豚ランキング提供の具体化、新たな改良形質の評価手法等について検討

< 家畜改良センター >

### 登録制度の見直し

登録制度見直し検討委員会(仮称)の開催【19年度内】

登録・能力検定制度の見直しについて、関係者から幅広く意見を聴取して検討

< (社)日本養豚協会 >

# 豚の改良増殖に係る各種会議等の位置づけ

## 豚改良体制整備中央推進検討会 (農水省主催)

豚改良増殖に係る関係機関の役割分担の再構築等豚改良増殖全体に係る課題の検討と全体調整を行う。必要に応じて随時開催。

検討会での議論を踏  
まえた具体的検討



## 豚改良増殖推進委員会 (家畜改良センター主催)

毎年1回程度、家畜改良センターの業務に係る課題を中心に関係機関との連携に係る調整と検討を行う。遺伝的能力評価の推進等個別具体的課題に関しては必要に応じて別途専門委員会等を設置し随時検討を行う。

検討内容の周知等



## 都道府県の行政担当者等を対象とした全国会議 (農水省主催)

毎年1回程度、主に都道府県の行政担当者、関係機関の担当者を中心に、各種会議等での検討内容の周知を図り、関係機関の役割分担に即した豚改良増殖の推進を図る。

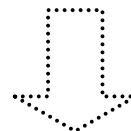


検討会での議論を踏  
まえた具体的検討

## 豚の新育種技術に関する研究会 (畜産草地研究所主催)

毎年1回程度、国及び都道府県、農業団体、民間等の豚改良関係者により、閉鎖群育種をはじめ育種技術に関する研究を推進する。

検討内容の周知等



連携

